

2024年度第1四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時：2024年8月13日（火）16時00分～17時00分

当社出席者：常務取締役 古川敏之、常務取締役 大治良高

主な質疑応答：

【全体】

Q) 第1四半期の業績の想定との差異について。

A) 為替の円安効果もあり売上はやや上振れし営業利益は想定線となった。為替効果を除くと、時計事業は売上が想定線、営業利益はやや下振れ。工作機械事業は売上・営業利益共にやや下振れ。デバイス事業は売上が想定線で営業利益は上振れ。電子機器他事業は売上・営業利益共に上振れした。

【時計事業】

Q) 営業利益の減益要因について。

A) 前年比では「CITIZEN」ブランド時計100周年に伴う宣伝費の増加とムーブメントの在庫調整が要因。想定比では年間で計画しているムーブメントの在庫調整が第1四半期に想定よりも進捗したことが要因。

Q) 宣伝費の増加について。

A) 通常、第1四半期は宣伝投資が少ないが、今期は上期を中心に「CITIZEN」ブランド時計100周年のイベント等を予定し、第1四半期から宣伝投資を行っており、想定通りの進捗となっている。

Q) 主力市場である北米の状況について。

A) 百貨店と宝飾チェーンは概ね前年並みの販売だったが、トラベル流通で仕入に慎重な姿勢がみられ、全体で微減となった。主要流通は概ね順調にセルスルーしており想定線で推移する見込み

Q) 販売単価について。

A) シチズンブランドの販売単価は上昇基調を維持しており、前年比の円ベースで、国内は2割、海外全体では1割以上上昇した。

【工作機械事業】

Q) 今後の受注のトレンドと3月の値上げ前の駆け込み需要の反動について。

A) 駆け込み需要の影響は日本が最も大きく7月以降に若干影響が残る可能性はある。また7、8月は欧米の夏季休暇等の影響で受注水準が低くなるが、全体では年度を通して緩やかな回復基調と認識している。

以上